

# タイル考～陶芸の視座より

やきものの魅力で読み解くタイル

「タイル」は是迄<sup>これまで</sup>一定の呼称なく化粧煉瓦、貼付煉瓦、装飾煉瓦、貼瓦、敷瓦等種々なる名称を用ひたるも今後は総て<sup>すべて</sup>統一的に「タイル」なる名称をもって取引する事

これは大正 11 年 4 月 12 日、東京で開かれた全国タイル業者大会において、全会一致で可決された提案です。以降、日本で「タイル」とは、建築物の表面を覆う、やきものでできた比較的薄い建材全般を指すようになりました。同時期、京都では、京都市から国に移管された陶磁器試験所を舞台に、初代所長植田豊橘等がタイルをはじめとする陶製の建築装飾の研究を積極的に進めていました。すなわち大正後期から昭和初期という時代、全国的にタイルが注目され、定義や在り方が研究されていたのです。戦後には岡本太郎をはじめとするアーティストがモザイクタイルを表現に取り入れたこともありましたが、工業製品のように量産される建材の一種というイメージが固定化されていったように感じられます。

やきものの技術による表現を生業とする作家は、「タイル」にどのような視線を向け、どのような可能性を見出すでしょうか。世界的な感染症の流行により、日常生活や価値観が大きな変化を迫られている今だからこそ、大量生産に適する製品として効率化が進められてきたタイルにも、これまでにないあり方が求められているのではないのでしょうか。アーティストの考える自由な「タイル」は、きっと、私たちにとっても新たな一步を踏み出すヒントとなるでしょう。

会期：令和 3 年 3 月 20 日(土・祝)～令和 3 年 6 月 27 日(日) (予定)

休館日 月曜日 (休日の場合は翌平日)

開館時間 午前 9 時～午後 5 時 (入館は午後 4 時 30 分)

会場 多治見市モザイクタイルミュージアム 3F ギャラリー

主催 多治見市モザイクタイルミュージアム

観覧料 一般 310 円、団体 250 円 (常設展観覧料でご覧いただけます)

高校生以下無料、障がい者手帳をお持ちの方及び付き添い 1 名様無料

## 【見どころ】

◎「コロナ禍」の閉塞感からの脱却を願って、現在、**第一線で活躍する陶芸作家**の皆様に新作の出品を依頼。

◎人気若手作家から熟練作家まで**60名**が参加、それぞれの思いで「**タイル**」に挑戦します。

◎多様な解釈の「**タイル**」、刺激的な作品が並びます。

## 【出品作家一覧】（順不同）

伊藤慶二、伊村俊見、加藤亮太郎、青木透、柴田雅光、渡邊太一郎、伊藤秀人、安藤千都勢、酒井紫羊、春田里美、新里明士、アサ佳、松永泰樹、鴨頭みどり、加藤仁香、大道宏美、小栗寿賀子、田中陽子、小塩薫、(株)タクロウクワタ、松永圭太、徳田吉美、佐藤正士、川端健太郎、加藤清之、道川省三、竹内真吾、吉川正道、金憲鎬、宇賀和子、吉川千香子、森正、内田鋼一、白木千華、池田晶一、井上雅子、中田雅己、斎藤まゆ、北村純子、日野田崇、村田彩、浅野哲、津守愛香、長澤和仁、田嶋悦子、富田美樹子、作元朋子、川口淳、鈴木秀昭、板橋廣美、長岡千陽、馬場康貴、正守千絵、十三代三輪休雪、松田百合子、大久保陽平、馬川祐輔、加藤委、森野彰人、山田晶

## 【関連企画】

インタビュー動画の制作など検討中。

お問合せ先

多治見市モザイクタイルミュージアム

〒507-0901 多治見市笠原町 2082-5 電話 0572-43-5101 FAX 0572-43-5114

URL: <http://mosaictile-museum.jp>